

慢性掻痒皮膚疾患における難治性かゆみの治療法の開発

順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所 高森建二

アトピー性皮膚炎、乾癬及び乾皮症などの慢性掻痒皮膚疾患のかゆみは、抗ヒスタミン薬などの既存治療法が無効な難治性かゆみであるため、新しい治療法及び予防法の開発が切望されています。

この研究では、慢性掻痒モデル及び臨床検体を用いて、

- 1) 難治性かゆみの治療法の開発に結びつく標的分子・細胞(オピオイド受容体、グリア細胞など)の発見、
- 2) かゆみを客観的に評価する臨床マーカー・グランザイムBの発見、
- 3) かゆみ過敏(アロネーシス)の分子メカニズムの解明、
などの成果を上げました(表1)。

表1. 難治性かゆみの治療法の開発に繋がる標的分子・細胞及びかゆみの臨床マーカー

	アトピー性皮膚炎	乾癬	乾皮症
標的分子	セマフォリン3A(皮膚) コレシストキニン2受容体 (脊髄)	μ-オピオイド受容体 (末梢及び中枢) κ-オピオイド受容体 (中枢)	セマフォリン3A(皮膚) コレシストキニン2受容体 (脊髄)
標的細胞	表皮内神経線維(皮膚) ミクログリア(脊髄)	ミクログリア(脊髄)	表皮内神経線維(皮膚)
臨床マーカー	グランザイムB(血漿)	リポカリン2(血清)	

これらの研究成果に基づいて、難治性かゆみの創薬展開に向けた研究に取り組み、「難治性かゆみの克服」及び「生活の質(QOL)の向上」を目指します。